

換気ツールに関する留意事項（下関市薬剤師会より）

こちらのツールは冷房稼働時の教室内の年齢や人数、教室の容積、教室廊下側窓の配置（3パターン）から学校環境衛生基準の二酸化炭素濃度（0.15%以下）を保持できる必要最低限の開け幅が算出できるツールとなっております。

窓の配置（3パターン）が該当しない場合もあるかとは思いますが、その際は、最も悪い配置パターン（中のみ）を選択していただきますとマージンを含んだ数値になります。

あくまで冷房使用時のツールですので、これから寒くなる暖房使用時に同じように使用できるかどうかは確認がとれておりません。

但し、冬のエアコン暖房使用時は、夏のエアコン冷房使用時と気流が逆になると考えられますので、現在のツールをご使用頂いてもさほど違いはないように思えます。（実証実験をしていないので推測にはなりますが。）

暖房使用時に現バージョンをご使用いただくのであれば、授業の最後あたりのCO₂濃度が一番高まっている時に、二酸化炭素濃度を測定して基準値を超えていないか確認していただくと安心かと思えます。

もしも、基準値を超えるようでしたら、開放窓の高低差があるほど空気が循環されることが今回の実験でわかりましたので、そのようにしていただくか、対角線上での開放、換気扇やサーキュレーターを利用していただく等、工夫をお願いしたいと考えます。

化石燃料を使用するファンヒーターをご使用の場合は、今回の実験条件とは大きく外れますのでツールをそのままご使用いただく事は難しいかと考えております。

なお、このツールはあくまで学校教室といった、ある程度定型化している空間に限っております。ツールが独り歩きして、例えば飲食店やスポーツクラブ等で誤った使用をされると困りますのでそのあたりをご配慮いただきますようお願い申し上げます。